

氏名	石 川 麻 子
授与した学位	博 士
専攻分野の名称	医 学
学位授与番号	博乙第 3670 号
学位授与の日付	平成13年12月31日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第5条第2項該当)
学位論文題目	Osteoporosis, bone turnover and hypogonadism in elderly men with treated leprosy (ハンセン病を有する老年期男性における骨粗鬆症, 骨代謝回転, および性腺機能低下症)
論文審査委員	教授 清野 佳紀 教授 井上 一 教授 公文 裕巳

学位論文内容の要旨

男性ハンセン病患者において、性腺機能低下症における骨量減少は、高齢期も継続し骨折の危険性が増すか否かを検討した。86名の男性ハンセン病患者を骨粗鬆症の有無により2群に分類した。骨粗鬆症の基準は、健常男性の各世代の平均骨密度-2SD (標準偏差) 以下または腰椎圧迫骨折を有する、と規定した。活性型ビタミンDや副甲状腺ホルモンの値は、両群でほぼ正常で有意差も認めなかったが、フリーテストステロン、エストラジオールは骨粗鬆症群で有意に低値を示した。骨代謝回転においては、骨吸収マーカーである尿中ピリジノリン・尿中デオキシピリジノリンおよび骨形成マーカーである血清オステオカルシンは共に骨粗鬆症群で有意に高値を示した。このことは、骨粗鬆症群では骨代謝が閉経後女性類似の高回転であることを示唆しており、高齢においても骨量減少が継続していると考えられる。骨量減少と骨折の危険性の増大に対して何らかの対策を講じる必要がある。

論文審査結果の要旨

本研究は、男性ハンセン病患者において、性腺機能低下症における骨量減少は、高齢期も継続し骨折の危険性が増すか否かを検討したものである。86名の男性ハンセン病患者を骨粗鬆症の有無により2群に分類し、骨粗鬆症の基準は、健常男性の各世代の平均骨密度-2SD (標準偏差) 以下または腰椎圧迫骨折を有すると規定した。その結果、活性型ビタミンDや副甲状腺ホルモンの値は両群ともほぼ正常で有意差も認めなかったが、フリーテストステロン、エストラジオールは骨粗鬆症群で有意に低値を示した。骨代謝回転においては、骨吸収マーカーである尿中ピリジノリン・尿中デオキシピリジノリンおよび骨形成マーカーである血清オステオカルシンはともに骨粗鬆症群で有意に高値を示した。このことから、骨粗鬆症群では骨代謝が閉経後女性類似の高回転であることを示唆しており、高齢においても骨量減少が継続していると考えられた。骨量減少と骨折の危険性の増大に対して何らかの対策を講じる必要があるという重要な知見を得たものとして、価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は博士(医学)の学位を得る資格があると認める。